

# 「古代人技のすごさを感じた」

富山・高岡市美術館長 村上さん講演

華師寺月例

## まほろば塾

日本人の心のあり方や豊かな伝統文化を伝える「月例奈良まほろば塾」（読売新聞社後援）が18日、奈良市の葉師寺で開かれた。解体修理を終えた東塔（国宝）について学ぶシリーズ（全3回）の2回目で、塔頂部の金属製飾り「水煙」を調査した富山県高岡市美術館長の村上隆さんが講演し、約110人が聴き入った。

火災よけの願いが込められた水煙は、重さ約1000キの青銅製板4枚を組み合わせて作られ、飛天の姿が透かし彫りで表現される。



水煙調査の経緯や内容について説明する村上さん（奈良市で）

歴史材料科学が専門の村上さんは、今回の新調にあたって精密な計測や調査を実施して細かな傷は補ったが、ゆがみまで忠実に再現したと説明。4枚がきれいに組めるよう作られていたとわかり、「古代人の技のすごさを感じた」と振り返り、「昔からあるような姿に仕上がりに、胸をなで下ろした」と語った。

講演は7月中旬にまほろば塾ホームページで動画配信される（有料、まほろば塾推進の会会員は無料）。次回は7月16日、左官頭領として解体修理工事を担った職人の宮奥淳司さんが講演する。